

3. 計画…………… (略)

4. 研究の実際と考察

(1) 検証構想

① 検証までの準備…………… (略)

② 検証授業計画

ア 単元名 面積

イ 単元の目標…………… (略)

ウ 指導計画 (総時数11時間)

次時	ねらい	仮説とのかかわり 「スッキリランド」での 予想される活動 A: 見通しの立たない 子ども B: 自分の考えを確か める子ども
1 (事例1)	○直接比較によって、広さを 比べることができる。	○座席表を活用して、子 どもの活動の様子をとら える。 A: 既習の長さ比べで の学習を想起する。 B: 2倍の拡大図を、 重ね切り、比較する。 (場合により、小集 団活動)
2	○ 長方形の横の長さを2 倍、3倍、・・・とすると、 面積も2倍3倍となること をとらえることができる。	○観察により、見通しの 立たない子どもや確かな 理解を必要とする子を把握 する。 A, B: かわり方調べ の時に、スッキ リランドで解決 したのを使っ て、解決への糸 口を見つける。
3 (本時)	○長方形や正方形の複合図 形の面積の求め方を工夫で きる。	○観察により、見通しの 立たない子どもや確かな 理解を必要とする子を把握 する。 A, B: ・1cm ² をしきつめる。 ・透明な1cm ² 方眼を 当てて、数える。 ・等積変形の考え方 を思い出す。

エ 検証授業Ⅱ

a 本時のねらい


長方形と正方形の複合図形の面積を
工夫して求めることができる。

b 授業仮説

複合図形の求積において、見通しの
立てられない子や自分の考えに自信を
持てない子が、「スッキリランド」に
おいて、自ら選択した操作活動や小集

団での話し合いを通して、解決の糸口
を発見すれば、意欲的に学習し、自力
解決の喜びも感じるであろう。

c 指導過程

段階	学習活動・内容	(方法)	研究仮説との関連
つか か む 見 通 す 解 決 す る	1. 問題を読み、課題 をつかむ。 この形の面 積をなるべく 簡単に求め ましょう。  2. 解決の見通しを持 ち、自力で解決する。 ・単位面積のいく つつ分 ・長方形に分割 できるからひく ・等積変形	ために ことを 、解決 「なる 示す。 たない な子を あれば 助を行 いて、 ている 考えで 対して を勧め たい。切 てなら る操作 を通して、 1つの式 で表す 簡単に 気づか せるこ とで 計算の きまり での学 習のつ ながりが 見え、 確かな 力とな ると考 える。	○長方形の求積で 使った透明方眼シ ート・1cm ² のタイ ルを用意して、自 由に選択し操作で きるようにしてお く。 ○問題の図形に、 切り取り線を示し たものを用意し、 切り取って長方形 として求積できる ことをヒントとし たい。

(2) 検証授業と考察

① 指導の概要

ア 検証授業1…………… (略)

イ 検証授業2

○ スッキリランドの活用

前時までの考えを残した画用紙から
ヒントを得た子が1名。自分の考えを
確かめるために、1平方センチメー
トルをしきつめ数えた子が1名。透明方
眼シートをあてがい、マス数を数え
た子が5名。今までずっとスッキリ
ランドで、具体物による操作活動を行
っていたT男は、ノートに図をかいて、
自力で解決する姿が見られた。